

深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトの継続展開と地域貢献

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター センター長 李永俊

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターを基盤とする深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトは、平成二十九年（二〇一七年）の調査開始から数えて四年目を迎えました。とりわけ本年度は、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴い、各所各種のイベントや催し物が延期もしくは中止を余儀なくされました。その中において、本プロジェクトは地道な調査活動の継続とオンライン型フォーラムの開催、『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第三集の刊行に至りました。これも、ひとえに深浦町長をはじめとする深浦町の皆様、ならびに本プロジェクトに篤い関心をお寄せ戴いている津軽青森地域の皆様の御支援の賜物にほかなりません。改めまして深謝申し上げます。

結果として、Zoomによるオンライン配信に切り替えて開催した第三回調査報告会フォーラムは、弘前・深浦・東京をオンラインでつなぐ「もうひとつの地域連携発信型」を実践する機会となりました。そして、特別講師には東京大学名誉教授の末木文美士先生をお迎えして、オンライン開催の快諾を得て御講演いただきました。古典籍調査活動につきましても、円覚寺様および深浦町教育委員会の全面的な御協力により順調に進捗し、本年度は二〇〇〇点以上に及ぶ古典籍・聖教類を青森県の重要文化財指定に登録申請する段階に入りました。このような貴重な資料群が、津軽地域一円ひいては青森県全体の重要文化財として認知され、さらには学術的な全国発進に値する新たな地域文化資源として定位されることを期待してやみません。

なお、本年度につきましても、公益財団法人青森学術文化振興財団より「深浦町における歴史文化資源調査とその活用による津軽青森地域振興事業」に対する助成を受けることが叶い、例年とは異なる社会情勢の渦中において、研

究調査の継続展開、オンラインによるフォーラム開催、そして報告書第三集の刊行にまで漕ぎ着けることができました。持続可能な地域社会への貢献活動の一環として、古典籍保存調査プロジェクトの有する底力が再認識されたところでもあります。より一層の地域連携と全国への情報発信に努めて参る所存でございます。これまでの皆様の御理解と御協力に感謝しつつ、引き続きの御支援の程、何卒よろしくお願い致します。

(令和三年(二〇二二)一月吉日記)